様式1

平成３０年度　学校評価表

学校教育目標	心豊かにたくましく　共に学び伸びる「けやきっ子」の育成

a ミッション	〈小中連携による学力向上の取組の充実と成果の発信〉 ○基礎学力の向上 ○ICT活用等の特色ある教育活動の推進	aビジョン〈学校教育目標：心豊かにたくましく共に学び伸びる「けやきっ子」の育成〉の具現化のために ○自分の考えを持ち表現できる児童の育成を目指した学習活動の展開 ○心や体を鍛えるとともに食育教育の充実 ○自己肯定感や規範意識を育み意欲や耐性を高める道徳教育の展開 ○地域人材を活用した授業と体験活動の推進と積極的な情報発信

尾道市立御調中央小学校

評価計画							自己評価					学校関係者評価				改善計画
	b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	担当者	f 目標値	7月 g 達成値	1月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価 イ	ロ	ハ	l コメント	m 改善案
確かな学力の向上	教科指導等の充実と確かな学力の育成	基本的な学力の向上	○日々の授業の充実 ・（研究主題に沿う授業） ○ノート指導の充実 ・家庭学習等の確認 ○徹底したくり返しによるスキルアップ ・ドリルタイム・家庭学習等	単元テスト国語（読む）算数（技能）で８０点以上が85% 市標準学力調査において全学年が全国平均点以上（年度末）100%	原田・坂本静	85%	98%	84%	84	B	12月18日実施の標準学力調査では，全国平均点以上100%の目標達成ができなかった。学年による差も見られるため，学年間の系統性を踏まえたうえで，苦手な領域を補充学習させる。2学期末の単元テストで８０点以上とれている児童の割合は，国語（読む），算数（技能）で，９９．８%だった。算数科では「数と計算」の領域に課題のある学年が多いため，重点的に補充学習や個別指導を行っていく。	3			学年・学級による差が見られる。特に算数科は，分からなくなるとその後の授業もついていけなくなるので早めの対応をお願いしたい。全国平均点以上を目指して取り組んでほしい。	学力テストで課題のあった問題については，けやきタイムを使って解き方を確認する。学年末に向けて学年のカを確実に付けられるよう，課題のある単元に重点的に取り組んでいく。
				ノート名人の表彰 自主学習の教室掲示と学期末の自主ノート展示	谷川	100%	100%	100%	100	A	掲示は定期的に行うことができた。校区内で連携を取り，西小や中学校の掲示を行ったことにより，自主学習の仕方を交流することができた。また，教室掲示も，自主学習の内容の幅を広げる手立てになった。	3			今後も取組を継続していくと共に，各学年に応じたノート指導の充実及び，自主学習の内容指導もしっかりと行っていってほしい。	ノート指導については,今後も表彰と掲示を通して「良いノート」を意識付けていく。今後は振り返りにもカを入れていく。
			○朝読書の充実 ・読書時間の確保 ・「読書の木」記録 ○読書内容の充実 ・各学年に推薦図書を設定	各学年,学年終了までに推薦図書を読み切った児童の割合	吉田	80%	59%	100%	100	A	２学期は声掛けを早めに始め，目標を意識させていった。また，課題図書を学年２冊揃えられるよう準備したため，２学期末の時点で，目標を達成することができた。	3			「見える化」は子供たちにとっても分かりやすいし，競争意識も高まってくると思うので，継続してほしい。	本年度は，推薦図書の準備が遅くなり，実質６月からの取組となったため，次年度は，４月の段階で推薦図書の選定と準備が整うようにしていく。
豊かな心の育成	意欲や耐性を高めやり抜く力の育成	自己肯定感を高め，他のよさを認められる集団の育成	○肯定的評価の充実 ・挨拶プラス一言 ○友だちのよさを認めたり，友だちに「ありがとう」が言える学級経営の充実 ○誕生日を祝う全校朝会の充実	児童居心地点検結果○の割合	西川	100%	90%	94%	94	B	課題が０という９３%だった。しかし，日々小さなトラブルや些細なことでの喧嘩などは起こっている。早期発見・解決に向けて取り組む必要がある。また，状況に応じて保護者との連携も行う。報告連絡相談を確実に行い，情報共有して組織的に動いていく。	1	1	1	トラブルは起こって当たり前であるが，小さな出来事を見逃さないで，早期発見，早期解決が重要となる。保護者との連携を密にして取り組んでほしい。また，肯定的評価をしっかりして，児童に自信を持たせてやってほしい。	毎月行う居心地点検や日々の児童の様子から早期発見・解決に向けて取組んでいく。トラブルが起こった場合は，解決に向けて丁寧に取り組む。また，状況に応じて保護者との連携も行う。教員間で情報を共有し組織的に動き，指導を行ったり，肯定的評価を行ったりしていく。
		規範意識の育成	○挨拶の徹底 ・先手挨拶	地域の方・先生・友だちに毎朝１０人以上挨拶をしたかを点検し，合格した児童の割合（教職員チェック）	山本・木村	90%	80%	82%	91	B	６年生を手本に自ら職員室の先生方に挨拶する児童が増えた。よい挨拶をした児童に挨拶カードを渡したり，あいさつ名人の表彰をしたりすることで児童一人一人の声の大きさに合わせて肯定的な評価をしていった。 地域の方や先生へ自分から先に挨拶することに課題がある。	1	2		挨拶は，認められたりほめられたりすると，うれしい，もっとやりたいとなる。保護者や教職員が，挨拶をする姿を見せていくことが大事である。家庭での朝のあいさつを大切にしてほしい。	良い挨拶をした児童に挨拶カードを渡したり，あいさつ名人の表彰をしたりする。また，児童一人一人の声の大きさに合わせて肯定的な評価をしていく。 教職員が積極的にあいさつをしていき，挨拶をする姿を児童に見せていく。 保護者の方に家庭でのあいさつを大切にするように呼びかけをしていく。
			○掃除の徹底 ・無言掃除	時間いっぱい丁寧に掃除ができた児童の割合（教職員チェック）	坂本圭	100%	88%	88%	88	B	振り返りカードを使いながら毎回チェックをしたり，担任や特命委員会による掃除場所の見回りや放送などを行ったりした。担任だけでは全ての掃除場所を見切れず，階段・トイレ・廊下などの掃除場所が騒がしく無言掃除はできていない。 縦割り班掃除を行っているため，リーダーの育成する必要がある。	3			上級生が無言であれば，下級生もそれが普通となる。各掃除場所での掃除のやり方や個々がやるべきことをきちんと指導していくことが重要である。	教室に５・６年生を１人ずつ配置し，教師が教室以外の場所も見回れるようにする。 各掃除場所での掃除のやり方や個々がやるべきことをきちんと指導していく。
健やかな体の育成	食育の充実とたくましい体力の育成	基本的食習慣の確立	○給食を食べきる声掛けの徹底 ○主食の摂取量の増加により健康増進	残菜率（主菜＋副菜の総重量比）（給食センター）	池田	1.8%	82%	100%	100	A	10月以降，残食量が目標値1.8%を下回ってきた。（12月は1.5%）各クラスのもう一口運動の成果が出てきた。 しかし，副菜の残食が多いので，３学期は，食品ロスと食べ物への感謝の気持ちを伝えることで，残食について考えさせていく。 目安量ごはんを持ってくる割合は，12月で66.5%になった。目安量を持ってくる児童が増えることで，自分も持ってこようという意欲につながってきているように思われる。高学年女子の持参率が低いのが課題である。	3			残食の量を家庭に伝えるなど家庭との連携も必要だと思う。全部食べることが，将来の夢に近づくために必要であると理解させる取組をしてほしい。	毎月食育通信で，残食について具体的に伝えていく。（残食の全体量・多く残っている料理・給食センターの工夫等） 給食の時間に，スポーツ選手の食事等を例にして，夢に近づく食事，体を成長させる食事について指導する。また，食品ロスと食べ物への感謝の気持ちを伝えることで，残食について考えさせていく。
		基礎体力の向上	○外遊びの奨励 ○授業開始時の体力つくり運動の徹底による体力向上	１日１回以上外に出て遊ぶ児童の割合（教職員チェック）	太田	100%	95%	94%	94	B	月に１回，外遊び運動週間（エンジョイウィーク）を設定した。全校，縦割り班対抗8の字とび大会を体育委員会主導で開催することで，休憩時間に大縄跳び等，自主的に協力して練習する姿が見られた。それ以外のギネスにチャレンジへの参加率も向上した。しかし，普段は外遊びをする児童としない児童の二極化が見られる。	2	1		外遊び運動週間の設定は，児童に意識させる意味でも良い取組である。継続してほしい。体育等でも，児童一人一人に運動する時間を確保し，体力テストで結果を出していってほしい。	エンジョイウィークの取り組みは引き続き継続していく。エンジョイウィークにだけ外遊びに取り組ませるのではなく，定期的に学級対抗や縦割り班対抗の大会を開くなどして，日頃から外遊びをしようとする意欲を高めたい。体力テストの結果向上にも資するため，ギネスの種目を精選していきたい。運動の指導法に関する教員研修も充実させる。
信頼される学校	地域の誇りとなる学校づくりの推進	積極的な地域への情報発信	○ホームページの内容の充実と計画的更新 ○毎月１回の学校便りの発行 ○毎月２回の学年または学級便りの発行	ホームページ更新回数（毎月２回以上）	篠﨑	100%	100%	100%	100	A	毎月，計画的にホームページを更新することができた。行事の更新もタイムリーにできた。	3			地域へ発信することで，学校教育への理解が深まる。HP，学校だより，地域ニュースなどあらゆる方向から発信されているのは良いことである。今後も継続していってほしい。	月2回，15日と月末と，日にちを決めて計画的アップしていく。行事に関しては，行事後に早めのホームページ更新をしていく。

【自己評価　評価】
Ａ：１００≦（目標達成）　Ｂ：８０≦（ほぼ達成）＜１００
Ｃ：６０≦（もう少し）＜８０　Ｄ：（できていない）＜６０

【外部評価】　イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。　ハ：わからない。